気道異物

異物（食物など）が気道に詰まってしまったときには、呼吸ができない状態となり、窒息から死に至ることがあるので、速やかに取り除くことが重要です。

窒息のサイン

（１）傷病者に反応がある場合

「喉が詰まったのですか？」と尋ね、声が出せずうなずくようであれば窒息と判断する。気道異物により窒息を起こすと、親指と人差し指で喉を掴む仕草をすることがあり、これを「窒息のサイン」と呼ぶ。

- 傷病者に咳をすることが可能であれば、咳をできるだけ続けさせる。※強い咳により自力で排出できることもある。
- １１９番通報を周りの人に依頼するとともに、まず背部叩打法を試みて、効果がなければ腹部突き上げ法を試みる。
- 救助者が一人の場合には、傷病者に反応がある間は、１１９番通報より異物除去を優先する。

背部叩打法

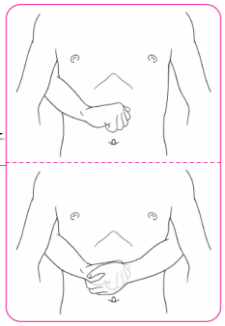
背部叩打法

- 傷病者の後方から手のひらの付け根（手掌基部）で左右の肩甲骨の中間あたりを力強く何度も連続してたたく。

腹部突き上げ法

- 傷病者の後ろからウエスト付近に手を回す。
- 一方の手でへその位置を確認する。
- もう一方の手で握り拳を作り、その親指側を傷病者のへそより少し上に当てる。
- その上をへそを確認した手で握り素早く手前上方に向かって圧迫するように突き上げる。

腹部突き上げ法



ポイント

- 明らかに妊娠している女性や高度な肥満者、乳児に対しては、背部叩打法のみを行い、腹部突き上げ法は行わない。
- 横になっている、あるいは座っている傷病者が自力で立ち上がれない場合は、背部叩打法を行う。
- まず背部叩打法を試みて、効果がなければ腹部突き上げ法を試み、異物が取れるか反応がなくなるまで、二つの方法を数回ずつ繰り返して続ける。

（２）傷病者の反応がない場合

- 傷病者の反応がない場合、あるいは最初は反応があって応急手当を行っている際にぐったりして反応がなくなった場合には、**直ちに通常の心肺蘇生の手順を開始する**が、その途中で口の中に異物が見えた場合は、取り除く。

乳児

反応がある場合には、乳児に対しては背部叩打法と胸部突き上げ法を、異物を取り除くか、反応がなくなるまで繰り返す。

背部叩打法

胸部突き上げ法

背部叩打法

- まず救助者の片腕の上に乳児をうつぶせに乗せる。
- 片方の手で乳児のあごをしっかりもち、頭側が低くなるような姿勢にして突き出す。
- もう一方の手のひらの付け根で、背部を力強く数回たたく。

胸部突き上げ法

- 救助者の片腕の上に乳児の背中を乗せる。
- 手のひら全体で乳児の後頭部をしっかり支えながら、頭側が低くなるようあお向けにする
- もう一方の手の指２本で、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とする胸骨の下半分を力強く数回連続して圧迫する（心肺蘇生の胸骨圧迫と同じ要領）。